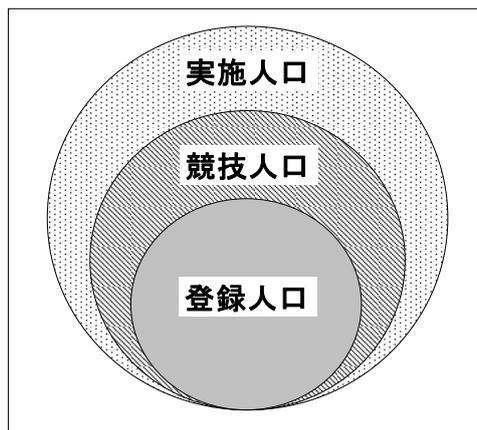


### Ⅲ. 調査結果

#### 1. 競技人口と登録制度に関する調査

スポーツの種目ごとの普及状況を示す概念として「競技人口」がある。しかし、その定義は必ずしも明確ではない。実際に把握ないし推計されているのは、登録人口（登録競技者数）と実施人口である。登録競技者数は、文字どおり各競技団体に登録されている競技者の数であるが、市民スポーツイベントとして行われる各競技の大会など、競技団体が参加者の氏名やその数を把握できていないケースも少なくない。これとは別に、たとえば笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」のスポーツ実施率に人口を乗じて「スポーツ実施人口」を推計することができるが、この中には、競技者ではない人、たまにそのスポーツを楽しむ人も含まれている。これら「登録人口」「競技人口」「実施人口」の関係を示せば図1のようになる。以下では中央競技団体の回答をもとに、主に登録人口と制度についてみていく。

図1 登録人口、競技人口、実施人口の関係



#### 1-1 登録制度の有無

競技者の登録制度については、回答を得た63団体のうち、登録制度が「ある」団体は58団体（92.0%）であった（表2）。そのうち、個人の登録制度のみある団体が29団体（46.0%）、チームの登録制度のみある団体が1団体（1.6%）、個人・チームともに登録制度がある団体が28団体（44.4%）であった。

表2 中央競技団体の登録制度（n=63）

登録種別	団体数	%
個人の登録制度のみあり	29	46.0
チームの登録制度のみあり	1	1.6
個人・チームともに登録制度あり	28	44.4
登録制度なし	5	7.9

## 1-2 登録競技者数

表 3 に中央競技団体の登録競技者数（またはチーム数）を示した。個人登録者数についてみると、最も多いのは剣道の 191 万 1,256 人で、以下サッカー（95 万 8,924 人）、バスケットボール（62 万 715 人）、ゴルフ（59 万 8,114 人）、ソフトテニス（43 万 9,117 人）、陸上競技（42 万 4,365 人）、バレーボール（42 万 2,924 人）の順となっている。登録チーム数についてみると、最も多いのは、軟式野球（4 万 8,023 チーム）で、以下、バスケットボール（3 万 4,345 チーム）、サッカー（3 万 917 チーム）、バレーボール（2 万 7,272 チーム）の順となっている。登録競技者数と登録チーム数がともに集計されているバスケットボールでは、1 チームあたりの平均登録者数が 18.1 人、サッカーでは 31.0 人、バレーボールでは 15.5 人と、一般的に試合に必要な人数（5 人、11 人、6 人）の 2～3 倍程度であった。本調査で個人の登録制度がある、かつ登録者数を回答した 55 団体の登録者を合計すると、752 万 5,581 人であった。登録者数を性別にみると、多くの種目で男性が女性を上回っているが、バドミントンやバレーボールなどでは女性の登録者・チームのほうが多い。

表 3 中央競技団体の登録競技者数および登録チーム数（n=89）

団体名	登録者数(人) [チーム数]		
	全体	男	女
(公社)全日本アーチェリー連盟	×	×	×
(一社)日本アームレスリング連盟	2,980 [100]	2,900	80
(公財)合気会	×	×	×
(公財)日本アイスホッケー連盟	×	×	×
(公社)日本アメリカンフットボール協会	*	*	*
(公社)日本ウエイトリフティング協会	4,719	3,917	802
(公社)日本エアロビック連盟	—	—	—
日本オーケーゴルフ協会	*	*	*
(公社)日本オリエンテーリング協会	×	×	×
(公社)日本カーリング協会	×	×	×
(公社)日本カヌー連盟	3,951	2,887	1,064
(一社)日本カバディ協会	340	268	72
(公財)全日本空手道連盟	87,718	—	—

団体名	登録者数(人) [チーム数]		
	全体	男	女
日本キャスティング協会	×	×	×
(公財)全日本弓道連盟	×	×	×
(公社)日本近代五種協会	50	30	20
(一社)全日本空道連盟	×	×	×
(公社)日本グラウンド・ゴルフ協会	173,026 <sup>※1</sup> [3,777]	105,047	67,862
(一社)日本クレール射撃協会	×	×	×
(公財)日本ゲートボール連合	*	*	*
(一社)日本健康麻将協会	×	×	×
(一財)全日本剣道連盟	1,911,256	1,345,868	565,388
(一財)日本航空協会	585	533	52
(公財)日本ゴルフ協会	598,114	540,558	57,586
(公社)日本コントラクトブリッジ連盟	7,700	2,700	5,000
(一社)日本サーフィン連盟	11,600 [1,222]	9,980	1,620
(公財)日本サッカー協会	958,924 [30,917]	903,552 [29,641]	55,372 [1,276]
(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会	×	×	×
(公財)日本自転車競技連盟	8,593	7,970	623
(公社)全日本銃剣道連盟	23,000	—	—
(一社)全日本柔術連盟	×	×	×
(公財)全日本柔道連盟	147,715 [8,550]	119,837	27,878
(一財)少林寺拳法連盟	19,097 [1,220]	—	—
(公財)日本水泳連盟	118,122 [5,923]	—	—
(特非)日本水上スキー・ウエイクボード連盟	×	×	×
(一社)日本水中スポーツ連盟	1,500 [90]	700	800

団体名	登録者数(人) [チーム数]		
	全体	男	女
(公社)日本スカッシュ協会	2,011 [148]	1,211	800
(公財)全日本スキー連盟	×	×	×
(公財)日本スケート連盟	10,385	—	—
(公社)日本スポーツチャンバラ協会	×	×	×
国際スポーツチャンバラ協会	300,000 [9,000]	250,000	50,000
(公財)日本相撲連盟	5,659	5,214	445
(公財)日本セーリング連盟	9,961	8,149	1,812
(一社)日本セパタクロー協会	563 [36]	396	167
(公財)日本ソフトテニス連盟	439,117 [14,808]	—	—
(公財)日本ソフトボール協会	184,516 [9,269]	107,751 [5,213]	76,765 [4,056]
(公社)日本ダーツ協会	×	×	×
(公財)日本体操協会	×	×	×
(公財)日本卓球協会	348,195	216,816	131,379
(公社)日本ダンススポーツ連盟	16,007	7,941	8,066
(公社)日本チアリーディング協会	×	×	×
(公社)日本綱引連盟	×	×	×
(一社)全日本テコンドー協会	2,182	—	—
(公財)日本テニス協会	42,858	27,915	14,943
(一財)日本ドッジボール協会	1,376 [708]	942 [662]	434 [46]
(公社)日本トライアスロン連合	25,000	17,500	7,500
(一社)日本ドラゴンボート協会	1,375 [55]	1,300 [52]	75 [3]
(公財)全日本なぎなた連盟	*	*	*
(公財)全日本軟式野球連盟	[48,023]	—	—

団体名	登録者数(人) [チーム数]		
	全体	男	女
(一社)日本バイアスロン連盟	—	—	—
(一財)日本バウンドテニス協会	×	×	×
(公社)日本馬術連盟	6,259 [648]	—	—
(公財)日本バスケットボール協会	620,715 [34,345]	357,164 [17,970]	263,551 [16,375]
(公財)日本バドミントン協会	298,574	141,589	156,985
(公財)日本バレーボール協会	422,924 [27,272 <sup>※2</sup> ]	161,134 [8,725]	261,790 [16,487]
(公社)日本パワーリフティング協会	3,300 [300]	—	—
(公財)日本ハンドボール協会	93,751 [4,914]	60,178 [2,894]	33,573 [2,020]
(公社)日本ビリヤード協会	×	×	×
(公社)日本フェンシング協会	5,646 [546]	3,592	2,054
(公社)日本武術太極拳連盟	17,375	4,313	13,062
(一社)日本フライングディスク協会	5,070 [261]	3,383 [141]	1,687 [83]
(一社)日本フロアボール連盟	2,634	1,593	1,041
(公社)日本ペタンク・ブール協会	×	×	×
(公財)全日本ボウリング協会	12,519	9,584	2,935
(公社)日本ボート協会	9,204 [534]	6,251	2,953
(一社)日本ボクシング連盟	×	×	×
(公社)日本ホッケー協会	11,075 <sup>※3</sup> [686 <sup>※4</sup> ]	6,875 [382]	4,181 [272]
(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟	4,021	—	—
(公社)日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟	114	—	—
日本マウンテンバイク協会	1,031	745	286
(一財)日本モーターサイクルスポーツ協会	×	×	×
(公財)日本野球連盟	12,769 [353]	12,769 [353]	0 <sup>※5</sup>
(一財)全日本野球協会	— <sup>※6</sup>	—	—

団体名	登録者数(人) [チーム数]		
	全体	男	女
(特非) 日本ライフセービング協会	×	×	×
(公社) 日本ライフル射撃協会	×	×	×
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	95,200 [2,995]	90,764 [2,927]	4,436 [68]
(公財) 日本陸上競技連盟	424,365 [15,802]	273,891	150,474
(公財) 日本レスリング協会	10,217 [915]	8,275	1,942
(一社) 日本ローラースポーツ連盟	623	426	197

\* : 登録制度なしと回答

— : 回答なし

× : 未回収

※1 その他 117人を含む

※2 男女混合 2,060チームを含む

※3 不明 19人を含む

※4 不明 5チームを含む

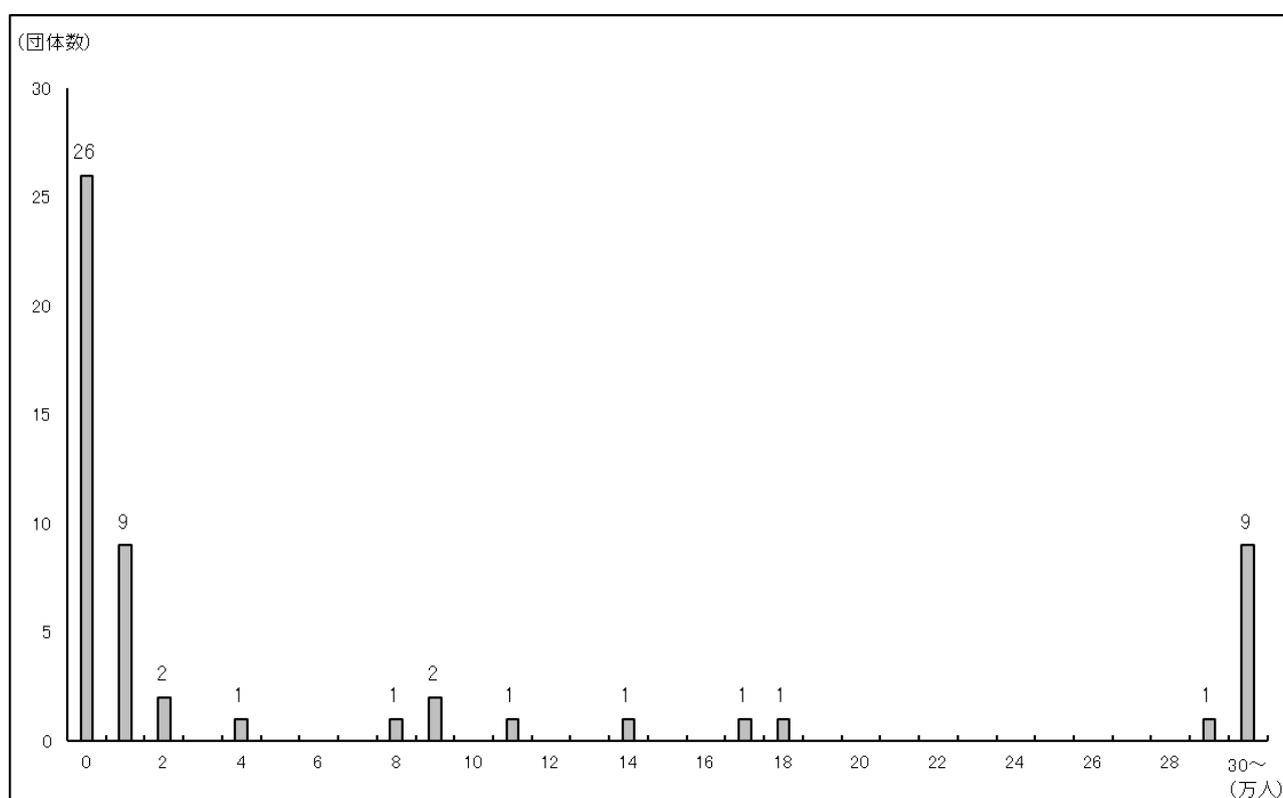
※5 若干名

※6 BFJ(全日本野球協会)による調査集計(推定値含む)では、1,308,711人

### 1-3 登録競技者数の分布

個人登録競技者数の分布をみると、平均は1団体あたり13万6,829人であるが、最小50人から最大約191万人までとかなり大きな差があった。中央値は1万385人、第1四分位は3,140人、第3四分位は10万6,661人であった。また1万人単位での最頻値は1万人未満（26団体）であり、本調査で登録競技者数の回答が得られた55団体の約半数を占めた。さらにそのうち、1,000人未満が6団体、1,000人以上5,000人未満が12団体と、登録競技者数が5,000人に満たない規模の団体（18団体）が全体の3割を占めている。

図2 中央競技団体の登録競技者数の分布



注) 登録競技者数は万人単位。したがって、「0」は9,999人以下を示す。